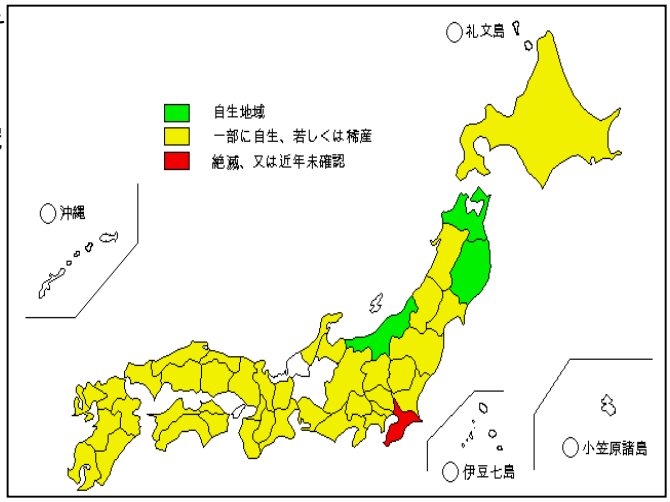
#338

ヤマトキソウ

Pogonia minor

ヤマトキソウ（愛知県西三河　10.5/22）

全国の明るい湿地や山地に自生します。姿形は同属のトキソウに酷似していますが本種には下記のような特徴があります。
①トキソウに比べ小型である(5～10cm程度）
②冠水するような場所ではなく、やや乾いた土壌を好む（冠水する湿原内にも自生するが、小低木の下などの粘土質で乾いた土壌によくみられる）
③花は全開せず、上向きに僅かに開く程度
④花色はクリーム色（白～桃色まで個体差はあるが、トキソウより色合いが淡い）
開花期はトキソウと同じ5～6月ですが、小型でクリーム色であることからトキソウと同じ湿原内に自生していても目を凝らさないと見落としてしまうような蘭です。また、湿原内の開けた場所ではなく、小低木の生えるやや森林化し始めた場所を好むことも発見しずらい原因の一つです。



全国の明るい湿地や山地に自生します。

ヤマトキソウ（愛知県西三河　10.5/22）

写真で見ると違いが分かりづらいですが、トキソウを見慣れた方が始めて本種を見たときには、「えっ？こんなに小さいの？？」と思うくらい小さいです。だいたい標準的なトキソウ(花茎まで含めて約20cm程度)の半分も無いくらいです。しかも密集ではなくある程度点在することが多いので本当に目立ちません。

自生域は全国に渡りますが、低山帯や湿地に生える蘭なので、宅地開発、森林化などの自然推移により自生地は激減しています。また、トキソウに比べると華やかさが足りず観賞価値が低いとされており、業者による商用増殖が行われず一般の販売網に乗らないため希少価値が高まり、皮肉にも美しいトキソウよりも盗掘による市場供給が多くされており、自生地の減少に拍車をかけております。

Document and photo by LittleFlower 2010

商用生産はほとんどされていないため入手は極めて困難です。
本種を育てるくらいであれば、ホームセンターで売っているトキソウのほうが何倍も美しく観賞価値が高いです。もし野草店などで本種が売られていたとしても盗掘品の可能性が高いため、安易な購入はお控え下さい。
栽培自体はトキソウに準じます。（自生地ではトキソウに比べ乾燥を好みますが、同様に腰水で管理しても元気に育ちます）直射日光のあたる風通しの良い場所で管理し、冬場の乾燥と凍結だけ避けてやれば栽培は難しくありません。（凍結しても対外はokですが）
増殖は地下ランナーによる自然増殖に任せましょう。

ヤマトキソウ（愛知県西三河　10.5/22）

ヤマトキソウ（愛知県西三河　10.5/22）

同属には湿地性のトキソウがあります。大変有名で人気のある野生蘭なので大抵の方はご存知だとおもいますが、一枚葉を展開し朱鷺色をした花をつける美しい蘭です。